

# 協働活性化事業 セクシュアリティコラム

保村 美佐江

識として持つ。そして、自分のからだを自分自身の境界線を持って心地よくしておくこと、そこには子どもへの暴力防止の視点があり、子どもたちをエンパワーする内容となっている。

クラス単位で、または2クラスづつ、図書室など広いめの部屋へ集まる。そこにはパワーポイントが用意されていて、以前に自分たちが答えたアンケートの結果がグラフなどのデータとなつてを映し出される。それを見ながら、その解説を聴きながらの50分、一時限。講義は立て板に水の如くはしよりながらの話が続く。「かけがえない命」についての出前授業。これはNPO法人SEANが2007年度高槻市協働活性化モデル事業として実施された。

高槻市内の市立中学校3校、1クラスで実施されたこの出前授業は、勿論、NPO法人SEANのオリジナルである。セクシュアル・ライツを中心として、ジェンダーの視点を明確に加えながら、いわゆる従来の性教育とは違ったアクセスである。自分自身のセクシュアリティ

を問いながら、他者との関係を見つめ直す。そこには社会に溢れる性情報へのリテラシーも含まれ、今の十代の子たちが置かれている状況に沿った内容となっている。わたしはSEANの代表の遠矢かえこさんと共にこの出前授業を実施した。

今回のプログラムは中学生が対象で、すでにその年齢で知っていて欲しいことをベースとして持つていくことが前提となる。しかし、子どもたちの中にはそれまでに受けてきた性教育の影響が顕著で、個人的に、又、学校の取り組みとして、子どもたちの持つてくる性の知識にはバラつきが見られる。しかし、このような取り組みを取り入れる学校である、ということであると思うが、子どもたちはわたしたちに率直に疑問を投げかけてくる。そこには大人への信頼が感じられる。普段の先生方の子どもたちへの姿勢が感じられた。今回の取り組みはそこにベースとなる性の知識が必要だが、それを是正するよい機会ともなったと感じている。

わたしは今も、他団体で性教育プログラムに関わっている。カナダから招かれたメグ・ヒックリングさんの講座を受講し、一緒に講座を受けた仲間と共にわたしたちのワークショップのシナリオを創った。それは子どもの人権をベースにしていて、子どもたちにはとても解りやすく、楽しいワークショップの形式を取っている。就学前の幼い頃から、日常的なかわりの中で、自分のからだの場所の名前を知り、年齢としての段階を踏まえながら、性の科学を知

愛について教えているのではない。わたしは恋愛は個人的な感性に基づくもので、それを教えることはできない。恋愛は自分の紡いでゆく人間関係の中から生まれてくる深い関係性であると考えている。現在、少子化が進み、様々な情報や物の洪水の中、子ども同志の間ではぐくまれる人間関係も希薄になつてきていると思われる。また、ジェンダーが温存される社会において、深層のジェンダー意識も作用して、生活や人間関係の体験の未熟さから生まれる暴力という問題が、恋愛の中で起きやすくなつている現状に警鐘を鳴らしているのである。人が人を好きになることはとてもステキなこと。お互いがお互いを尊重しあい、安心できる関係を創ること。最後に子どもたちに残す、わたしたちのメッセージは、子どもたちにとっては前向きで理想的な響きを持つていよう。しかし、わざわざこのようなことを伝える必要がない社会となること。わたしたちの活動の使命である。そのためにも今後も機会を捉えて子どもたちに届けて、共に考えてゆきたいプログラムである。